

第4回北陸エピジェネティクス研究会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Horike, Shinichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00050418

『学会開催報告』

第4回北陸エピジェネティクス
研究会The 4th Annual Meeting of the HOKURIKU
Epigenetics meeting金沢大学学際科学実験センター ゲノム機能解析分野
堀 家 慎 一

平成29年11月13日(月)～14日(火)に、金沢大学宝町キャンパス医学記念館において、第4回北陸エピジェネティクス研究会を開催いたしました。本年度、4回目の開催となった北陸エピジェネティクス研究会では、年に1回、北陸3県のみならず近隣の県より参加者を集い、転写制御やノンコーディングRNAといった分野も含めた広義な意味でのエピジェネティクスを主題とした研究会を開催しております。

今回、金沢大学十全医学会にご後援いただき、一般参加及び招待者を併せて120名を超える参加者を得て、盛会裏に研究会を終えることができました。

11月13日(月)に開催された特別講演では、東京大学の程久美子先生よりCRISPR/Cas9システムにおけるゲノム編集効率に、温度による塩基対合の強さが大きく影響することが紹介され、現在非常に注目されているゲノム編集技術のさらなる進展に期待が集まった。また、東邦大学の村本先生は転写のオン・オフを長時間可視化する独自技術を用いた1細胞レベルの生細胞解析を紹介され、未分化状態の1細胞が分裂・増殖し、再び分裂する過程で転写動態が世代を超えて受け継がれることを視覚的に示し、多くの聴衆の視線を釘付けにした。最後に、本学の理工研究域・自然システム学系の程肇先生は、本年のノーベル賞受賞対象となったジェフリー・ホール博士(アメリカ)、マイケル・ロスバッシュ博士(アメリカ)、マイケル・W・ヤング博士(アメリカ)らの概日リズム研究について、裏話も含め大変わかりやすく紹介された。その上で、およそ50年にわたる概日リズム研究の結果、現在では一群の時計遺伝子の発現が、転写・翻訳フィードバックループにより相互に制御される「Genetic Oscillator」こそが、概日時計発振のための共通の分子基盤であることを示された。

以下に発表演題と講演者を示す(敬称略、講演者のみの氏名を記載)

一般講演

米沢理人(アクティブ・モティフ株式会社)「エピジェネティクス研究のための再現性と多用途性のあるリコンビナント抗体開発」、関由行(関西学院大学理工学部)「後口動物における多能性ネットワークの起源と変容」、成瀬智恵(京都大学医学研究科附属動物実験施設)「マウス骨格形成におけるヒストン脱メチル化酵素Jmjd3の役割」、大畑樹也(浜松医科大学分子生物学講座)「A snapshot of facultative heterochromatin dynamics revealed by antisense long non-coding RNA Tsix」、定家真人(東京理科大学理工学部応用生物科学科)「核の形態変化を指標にした細胞老化誘導剤の探索と老化メカニズムの解明」、Jason Little

(株式会社ダイアジェノード)「CATS: Diagenode's Solution for Low Input RNA-seq Library Preparation」、奥村兼汰(金沢大学 医学類)「Rett症候群の発症機序の解明」、八代百合子(金沢大学自然科学研究科自然システム学専攻)「神経活動依存的な遺伝子発現を簡易に定量化できる手法の構築と新規な因子の網羅的スクリーニング」、大場祐希(金沢大学大学院自然科学研究科自然システム学専攻生命システムコース)「哺乳類時計遺伝子Bmal1の転写制御機構の解析」、瓜生耕一郎(金沢大学 理工研究域自然システム学系)「哺乳類概日時計遺伝子Bmal1の転写制御機構の数理モデリング」、Zhu Bo(金沢大学医薬保健研究域医学系再生分子医学)「Baf53a is involved in survival of mouse ES cells, which can be compensated by Baf53b」、山本真容子(関西学院大学理工学部)「PRDM14転写抑制複合体による動的エピゲノム制御機構の解明」、杉山昂太(関西学院大学理工学部)「ヒト始原生殖細胞におけるELK1-MED23経路の機能解析」、石田健(富山大学医学部)「mRNAスプライシング阻害剤が細胞周期停止を引き起こすメカニズムの解析」、甲斐田大輔(富山大学医学部)「snRNP非依存的なスプライシング反応機構の解明」、金田文人(福井大学大学院工学研究科)「HAT阻害剤の糖尿病白内障治療効果について」、荻野裕平(福井大学大学院工学研究科)「エピジェネティックに発現制御される出芽酵母 DDI2/3の1細胞レベルでの解析」、近藤嘉則(福井大学大学院工学研究科)「アミノ酸飢餓で誘導されるCN13領域とGCN4の関与」、綾野貴仁(福井大学大学院工学研究科)「IMD2のエピジェネティックな発現制御機構に関与する遺伝子の解析」、林めぐみ(富山大学医学部)「RNA結合タンパク質の過剰発現はスプライシング異常による転写抑制を解除する」計20題

特別講演

程久美子先生(東京大学大学院理学系研究科・生物科学専攻)「環境温度によってRNAによる遺伝子調節作用が変化する機構」、村本 哲哉先生(東邦大学理学部生物学科)「1細胞レベルでみられる転写動態の多様性と秩序形成」、程肇先生(金沢大学・理工研究域・自然システム学系)「哺乳類の概日リズムを司るGenetic Oscillator」

本学術集会の開催にあたっては、金沢大学十全医学会のご後援、関係各位のご支援をいただきました。心より感謝を申し上げます。

